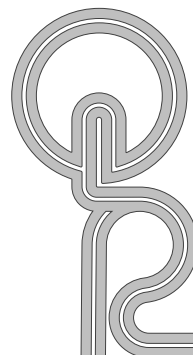


第四紀通信

Vol. 5 No. 4, 1998



テフラ研究委員会 北部フォッサマグナ野外集会 - 岐阜県丹生川村
における恵比寿峠火砕流堆積物の観察 (植木岳雪撮影)

Vol. 5 No. 4		July 31, 1998	
1998年大会第4報・プログラム	2	31st IGC / 公募	15
テフラ研究委員会巡検報告	10	第四紀研究連絡委員会議事録	17
地球惑星科学関連学会ニュース	11	幹事会議事録	17
INQUA-GLOCOPH '98	12	会員消息	18
学会・シンポジウム・報告会案内	13	第四紀通信 5-3 の訂正	20

日本第四紀学会 1998年大会 - 総会・研究発表会 (第4報)

総会・一般研究発表・シンポジウム

会場 神奈川県立生命の星・地球博物館

1. 日程

1998年8月26日(水)一般研究発表-----ミュージアムシアター(1階)

9:24 ~ 10:36 オーラルセッション(O-1 ~ 6)

10:36 ~ 10:48 コーヒーブレイク

10:48 ~ 12:00 オーラルセッション(O-7 ~ 12)

12:00 ~ 13:00 昼休み(幹事会 会議室)

13:00 ~ 14:20 ポスターセッション ショートサマリー発表(P-1 ~ 20)

14:20 ~ 14:44 オーラルセッション(O-13 ~ 14)

14:44 ~ 16:00 コーヒーブレイク・ポスターセッション質問----- (講義室1階)

16:00 ~ 17:24 オーラルセッション(O-15 ~ 21)

17:30 ~ 19:00 評議員会(講義室1階)

ポスター展示時間 12:00 ~ 17:30

1998年8月27日(木)一般研究発表-----ミュージアムシアター(1階)

9:12 ~ 10:24 オーラルセッション(O-22 ~ 27)

10:24 ~ 11:00 ポスターセッション ショートサマリー発表(P-21 ~ 29)

11:05 ~ 12:30 日本第四紀学会総会 ミュージアムシアター(1階)

12:30 ~ 13:30 昼休み

13:30 ~ 14:56 オーラルセッション(O-28 ~ 34)

14:56 ~ 15:36 コーヒーブレイク・ポスターセッション質問----- (講義室1階)

15:36 ~ 17:24 オーラルセッション(O-35 ~ 43)

18:00 ~ 20:30 懇親会(箱根ビール蔵)

ポスター展示時間 9:00 ~ 17:00

1998年8月28日(金)シンポジウム

「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」

9:30 ~ 17:00 シンポジウム講演(S-1 ~ 12)

1998年8月29日(土)巡検

案内 山崎晴雄・今永 勇・小林 淳

「国府津・松田断層, 神縄断層沿いの地域における第四紀層の層序と変動」

普及講演会(13:30 ~ 15:00) 講義室 講師 西南学院大学 松田時彦

「神奈川県西部の活断層と地震(仮題)」

「シンポジウム」は, 神奈川県立生命の星・地球博物館と共催,

「普及講演会」は神奈川県立生命の星・地球博物館と神奈川地学会と共催

- * オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ベルは1鈴8分、2鈴10分、終鈴12分です。2鈴で講演を終え残り時間を質疑に充ててください。
- * 一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計で8枚以内をお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出してください。OHPはご自分で操作してください。
- * ポスターセッションは横110cm、縦165cmのパネルが用意され、ポスターの展示は2日通しとなります。掲示時間は26日12:00～27日17:00です。なお、午後のコーヒープレイク時間には質問等が受けられるよう、発表者はできる限りポスターセッション会場に居てください。
- * ポスターセッション講演者にはオーラル講演の間に1件4分以内のショートサマリー発表の時間が与えられます。OHPやスライドを使って要領よくセールスポイントを伝えてください。

2. 会場

一般研究発表・総会・シンポジウム：神奈川県立生命の星・地球博物館
(小田原市入生田499)

交通案内：小田原駅から箱根登山鉄道(箱根湯本または強羅行き)に乗り、
入生田(いりうだ)駅で下車(所要時間約10分)。徒歩3分。(地図次頁)

車での来館は夏休み中で混雑していることと駐車場が工事中のためご遠慮ください。
懇親会：箱根ビール蔵(博物館から徒歩約10分 地図次頁)
(会場への道順は研究発表会場でお知らせします)

大会連絡先：〒250-0031 小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館
日本第四紀学会1998年度大会準備委員会 松島義章、平田大二
TEL: 0465-21-1515

大会準備委員長：濱田隆士(神奈川県立生命の星・地球博物館)

館内での注意：館内は指定された場所以外は全館、禁煙、飲酒飲食禁止と
なっています。ご注意ください。

3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売します。定価は2500円です。通信販売もいたしますので
購入ご希望の方は、学会事務センター(日本第四紀学会事務局)に申し込んでください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21
日本学会事務センター 日本第四紀学会
TEL 03-5814-5801 FAX 03-5814-5820

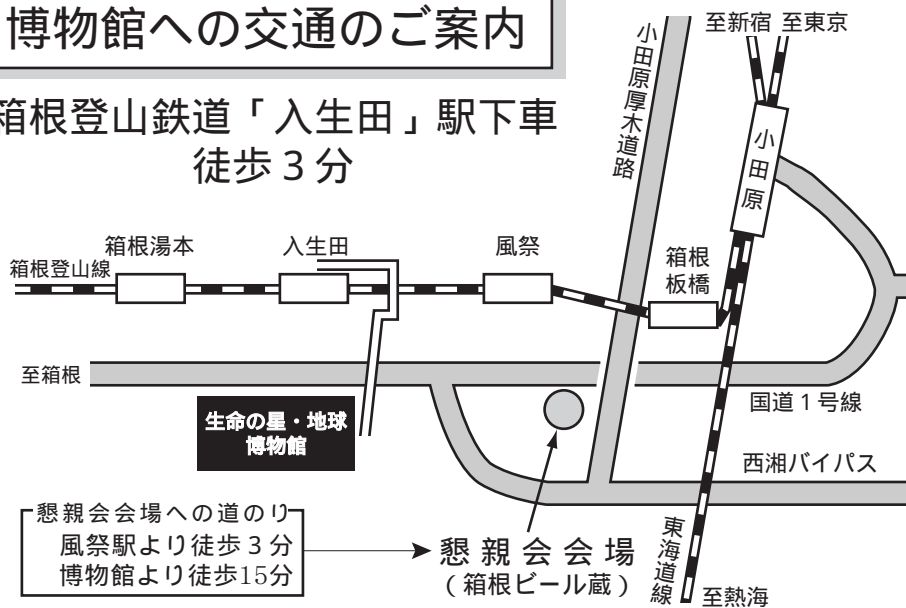
4. 懇親会

箱根ビール蔵(博物館から徒歩約15分 地図次頁)
(会場への道順は研究発表会会場でお知らせします)

ビールのみ放題コースで、一般5000円、学生4000円の予定。

博物館への交通のご案内

箱根登山鉄道「入生田」駅下車
徒歩3分



懇親会会場への道のり
風祭駅より徒歩3分
博物館より徒歩15分

「小田原」駅から箱根登山鉄道（箱根湯本行または強羅行）に乗り、「入生田いりうだ」駅（所用時間約10分）で下車。徒歩3分。

小田急線急行「箱根湯本」行き「入生田」駅に停車。

小田原からの電車は約30分おきに登山鉄道と小田急線があります。「小田原」駅から箱根登山鉄道バスまたは伊豆箱根鉄道バスの箱根湯本方面行で、「入生田」バス停下車、徒歩2分。

休日は交通混雑が予想されます。

休日の車での来館は、交通混雑と駐車場の混雑が予想されます。できるだけ電車・バスをご利用ください。



駅から右に進み、
登山線のガードをくぐり、歩道橋を渡ったところが博物館です。
徒歩3分

5, プログラム

シンポジウム「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス

世話人：山崎晴雄，太田陽子，松島義章

3日目：8月28日（金）：神奈川県立生命の星・地球博物館と共催

ミュージアムシアター（1階）

No.	講演時間	題目・氏名
S-0	09:30 - 09:35	シンポジウム趣旨説明 山崎晴雄(都立大)
S-1	09:35 - 10:15	相模湾周辺の地震テクトニクスの枠組みと諸問題... 石橋克彦(神戸大)
S-2	10:15 - 10:55	相模湾北西部および周辺地域の地震・火山テクトニクス そして、それらの知識を防災にどう生かすか 小山真人(静岡大)
S-3	10:55 - 11:35	国府津・松田断層の活動史とテクトニクス 山崎晴雄(都立大)・水野清秀(地調)
		コメント2件
S-4	11:35 - 11:45	1. 相模湾北部および周辺地域の地震活動.. 棚田俊収(神奈川温地研)
S-5	11:45 - 11:55	2. 相模湾の海底地形と地質構造 加藤 茂(水路部)
	12:00 - 13:30	昼食休憩
S-6	13:30 - 14:10	丹沢山地とその周辺地域の地殻変動とその意義.. 多田 堯(国土地理院)
	14:10 - 14:50	三浦半島の活断層に関する諸問題 とくに北武断層・武山断層の最近の調査と関連して 太田陽子(専修大)
S-8	14:50 - 15:30	沖積層に保存された相模湾周辺の古地震 津波堆積物の記録 藤原 治(動燃東濃地科学センター)・増田富士雄・酒井哲弥(京大)・入月俊明(愛教大)・布施圭介((株)大和地質)
S-9	15:30 - 16:10	完新世海成堆積物からみた相模湾沿岸地域のネオテクトニクス 松島義章(生命の星・地球博)
		コメント3件
S-10	16:10 - 16:20	1. 沖積層中にみられる古地震イベント堆積物について(コメント) 海津正倫(名古屋大)
S-11	16:20 - 16:30	2. 相模湾周辺の完新世海成段丘と地震性地殻変動 熊木洋太(科学技術庁)
S-12	16:30 - 16:40	3. 神奈川県西部の遺跡から検出された地震の痕跡 上本進二(県立七里ガ浜高)・上杉 陽(都留文科大)
	16:40 - 17:00	総合討論

一般研究発表

オーラルセッション

1日目：8月26日（水）

No.	講演時間	題目・氏名
O-1	9:24 - 9:36	完新世におけるブナの侵入と個体群成長 紀藤典夫(北教大函館)
O-2	9:36 - 9:48	北海道東部における石刃鍬石器群の遺跡立地 高倉 純(北大院文)
O-3	9:48 - 10:00	1993年北海道南西沖地震で発生した砂脈・液状化層における礫の再配列 遠藤邦彦(日大文理)・陶野

学会からのお知らせ

- 郁雄(国立環境研)・高宮浩一・橘川貴史(日大文理)・鈴木正章(道都大)
- 4 10:00 - 10:12 奥尻島の海岸段丘とその古気候変遷
..... 瀬川秀良(元北教大)・中村俊夫(名大)・星野フサ(札幌静修高)
- 5 10:12 - 10:24 下北半島、田名部平野に分布する中期更新世テフラ・段丘面と恐山火山の噴火史 桑原拓一郎・山崎晴雄(都立大)
- 6 10:24 - 10:36 1997年秋田県鹿角市八幡平地すべりに伴う複合災害
..... 陶野郁雄(国環研)・遠藤邦彦(日本大)・千葉達郎(アジア航測)
- 10:36 - 10:48 コーヒーブレイク
- 7 10:48 - 11:00 秋田県能代砂丘中に発見された埋没樹と砂丘の編年 工藤英美
- 8 11:00 - 11:12 六日町盆地西縁における活断層の性質と変位速度... 金 幸隆(専修大)
- 9 11:12 - 11:24 福島県太平洋岸、塚原海岸におけるMIS5.5の海進海退過程と降下テフラに関する一資料 鈴木毅彦(都立大)
- 10 11:24 - 11:36 コアラーによる法正尻泥炭層の採取について.. 香内 修(福島県立博)
- 11 11:36 - 11:48 銚子半島犬吠層群における大町 APm テフラ群の層位
..... 中里裕臣(農工研)・佐藤弘幸(静岡聖光学院)
- 12 11:48 - 12:00 房総半島南部、大房岬の海成段丘からみた酸素同位体ステージ3の古海面高度 菊地隆男(都立大)
- 12:00 - 13:00 昼食休憩(幹事会:会議室)
- 13:00 - 14:20 ポスターショートサマリー(P-1 ~ P-20, 各4分)
- 13 14:20 - 14:32 東京湾の地下地質(1) 層序とテフラ
..... 齊藤尚人(富里高)・東京港地下地質研究グループ
- 14 14:32 - 14:44 東京港の地下地質(2) 礫層とその組成
..... 小川政之(池袋商業高)・東京港地下地質研究グループ
- 14:44 - 16:00 コーヒーブレイク・ポスターコアタイム
- 15 16:00 - 16:12 高尾山コナラ林におけるコナラ花粉粒生産量の推定
..... 清永丈太(東京都建設局)
- 16 16:12 - 16:24 三浦半島北西部池子谷における弥生時代中期のイネ植物珪酸体化石の分布 江口誠一(千葉県立中央博)
- 17 16:24 - 16:36 多摩川河口域でみられた更新世末期~完新世の堆積物
..... 石綿しげ子(基礎地盤コンサルタンツ)・上杉 陽(都留文科大)・黒崎 秀(東京電力)
- 18 16:36 - 16:48 相模川下流低地における完新世の古環境変遷
..... 増淵和夫(川崎市青少年科学館)・嶋田繁(明治大)・松田光太郎(かながわ考古学財団)・杉原重夫(明治大)
- 19 16:48 - 17:00 神奈川県伊勢原断層トレンチで検出された縄文中期軽石質火山灰
..... 上杉 陽(都留文科大)・小沢 清・長瀬和雄(温泉地学研)・上本進二(七里ガ浜高)・山本幸子(戸塚高)
- 20 17:00 - 17:12 マグマ噴出量の累積変化から推定される箱根火山の噴火様式
..... 小林 淳((株)ダイヤコンサルタント)
- 21 17:12 - 17:24 箱根火山南東麓(根府川~真鶴)のテフラと溶岩
..... 安野 信(保土ヶ谷養護)・稲垣 進(岡津高)・上杉 陽(都留文科大)・鶴浦武久(鷺宮高)・菊地隆男(都立大)・佐藤喜博(栗木台小)・長井雅史(茨城大)・則 茂雄(明大明治中高)・満岡 孝(科学博)・由井将雄(明大明治中高)・米澤 宏(獨協中高)・箱根団体研究グループ

オーラルセッション
2日目：8月27日(木)

- 22 9:12 - 9:24 東海地方における満池谷不整合 松葉千年(桑名市)
- 23 9:24 - 9:36 長野県信濃町貫ノ木周辺の中～上部更新統
..... 石井陽子(大阪市立自然史博)・野尻湖地質グループ
- 24 9:36 - 9:48 岐阜県高富低地の古環境変動と木曾川の大規模流路変遷
..... 森山昭雄(愛教大)・鈴木毅彦(都立大)・加古久訓(愛教大)
- 25 9:48 - 10:00 岐阜県高富低地試錐試料の花粉・珪藻分析による過去8.5万年間の古
気候変動 加古久訓(愛教大)
- 26 10:00 - 10:12 敦賀平野周辺に分布する活断層の最近数万年間の活動 ... 杉山雄一・
吉岡敏和・佐竹健治(地調)・須藤宗孝(ダイヤコンサルタント)
- 27 10:12 - 10:24 島根県松江市西川津地域での K-Ah 層準の古植生
..... 渡辺正巳(文化財調査コンサルタント(株))・会下和宏
(島根大)・中村雅史((株)日新技術コンサルタント)・徳岡隆夫(島根大)
- 10:24 - 11:00 ポスターショーサマリー (P-21 ~ P-29, 各4分)
- 11:05 - 12:30 日本第四紀学会 1998年総会
- 12:30 - 13:30 昼食休憩
- 28 13:30 - 13:42 兵庫県播磨地域に及んだ中期更新世の海進について 佐藤
裕司・加藤茂弘(兵庫県立人と自然博)・井上史章・兵頭政幸(神戸大)
- 29 13:42 - 13:54 神戸市学園都市地域に分布する高塚山層と大阪層群
..... 井上 淳・吉川周作(大阪市立大)
- 30 13:54 - 14:06 大阪湾 1700m ボーリングコアの古地磁気年代測定
..... 兵頭政幸・D.K. ビスワス・谷口由紀子・金子雅一(神戸大)・
加藤茂弘・佐藤裕司(兵庫県立人と自然博)・衣笠善博・水野清秀(地調)
- 31 14:06 - 14:18 大阪南部に分布する段丘層の層序と編年
..... 銭 祥富・吉川周作(大阪市立大)
- 32 14:18 - 14:30 江ノ川支流、神之瀬川流域における斜面と河成面の編年
..... 吉木岳哉(京都大東南ア研・非)
- 33 14:30 - 14:42 室戸岬面の形成年代と酸素同位体ステージ 6 の河成礫層
..... 植木岳雪・桑原拓一郎・吉山 昭(都立大)
- 34 14:42 - 14:54 肝属平野の地形発達史(予報)
..... 永迫俊郎(東大院)・森脇 宏(鹿児島大)・奥野 充(福岡
大)・新井房夫(群大名)・松島義章(生命の星地球博)・中村俊夫(名大)
- 14:54 - 15:36 休憩・ポスターコアタイム
- 35 15:36 - 15:48 汽水湖沼堆積物中の珪藻遺骸群集に記録された完新世後半の周期的な
塩分変動とその形成要因について 鹿島 薫(九州大・理)
- 36 15:48 - 16:00 中国太湖南岸の完新世堆積物の岩石・古地磁気分析
..... 小森次郎・長谷川史彦・遠藤邦彦(日大文理)・濱田誠一(道
立地下資源調査所)・石原園子(日大文理)・村田泰輔(北大地球環境)・
玉置晴子・松下啓佑(日大文理)・日大 華東師範大太湖調査グループ
- 37 16:00 - 16:12 珪藻化石分析に基づく中国・太湖の過去 1 万年の古環境変動
..... 村田泰輔(北大・地球環境)・遠藤邦彦・小森次郎(日大文理)・

- 38 16:12 - 16:24 浜田誠一(道立地下資源調査所)・兪立中・鄭祥民(中国華東師範大学) 蔚山断層系(韓国東南部)における活断層の活動性評価 岡田篤正(京都大)・渡辺満久(東洋大)・鈴木康弘(愛知県大)・竹村恵二(京都大)・石山達也・川畑大作・金田平太郎(京大院)・慶在福・蔡錘勳(韓国教員大)
- 39 16:24 - 16:36 韓半島南東部 蔚山断層系北部のトレンチ調査 金田平太郎・岡田篤正・竹村恵二(京大)・渡辺満久(東洋大)・鈴木康弘(愛大)・成瀬敏郎(兵教大)・慶在福(韓国教員大)・石山達也・川畑大作(京大)・谷口薫(広大)・蔡錘勳(韓国教員大)
- 40 16:36 - 16:48 タイ王国バンコク市周辺の更新統上部・完新統産貝化石群について .. 佐藤喜男(地調)・Sin Sinsakul(DMR)・斎藤文紀・鈴木祐一郎(地調)
- 41 16:48 - 17:00 フィリピン群島における完新世の高海面期と地盤変動 前田保夫・フェルナンド シリンガン・ミゲール カノ(フィリピン大)・佐藤裕司(兵庫県人と自然博)・中村俊夫(名古屋大)・大村明雄・渥美 晋(金沢大)
- 42 17:00 - 17:12 フィリピン諸島産更新世サンゴの スペクトル²³⁰Th/²³⁴U年代とその意義(速報) 大村明雄(金沢大)・河名俊男(琉大)・前田保夫(フィリピン大)
- 43 17:12 - 17:24 Cook 諸島、Rarotonga 島の海岸平野における完新世の汀線変化と海面変化 森脇 宏(鹿児島大)・近森 正(慶應大)・奥野 充(福岡大)・中村俊夫(名古屋大)

ポスターセッション

- P-1 極微細石片の平面分布 石器製作実験結果から 岡澤祥子(都立大)
- P-2 埼玉県下で新たに得られた後期更新世の花粉化石群 楡井 尊(埼玉県立自然史博)
- P-3 つくば市付近の上総・下総層群の連続層序 コア試料による検討 福沢仁之(都立大)・三本健四郎・山根 誠・吉田 浩・妹尾洋一(応用地質)・北村晃寿(静岡大)・林田 明(同志社大)
- P-4 関東山地の古平原 飯能層に礫を供給した関東山地のホルンフェルス 加賀美英雄(城西大)・谷口英嗣(駒沢大学高)
- P-5 大磯丘陵、虫窪における中部更新統二宮層の岩相と地質年代 田口公則・大島光晴(神奈川県博)・田中浩紀(御宿高)・平田由紀子(東大海洋研)・小竹信宏(千葉大)・樽 創・松島義章(神奈川県博)
- P-6 箱根古期外輪山南東地域における火山岩主化学組成の時間変化 長井雅史・高橋正樹(茨城大理)・上杉 陽(都留文科大)・米澤 宏(獨協学園)・由井将雄(明大明治高)・箱根団体研究グループ
- P-7 諏訪湖湖底堆積物による盆地沈降史の解明 斉藤耕志・福沢仁之(都立大)・奥村晃史(広島大)・水野清秀(地調)・藤原 治(PNC)
- P-8 比抵抗からみた諏訪盆地中央部の地質構造 品川俊介(土木研)
- P-9 高山盆地小八賀川流域、河川堆積物の变化からみる水系の変化と飛騨山地の隆起について 藤根 拓(国際航業(株))
- P-10 琵琶湖西岸活断層系・饗庭野断層の活動履歴

- 小松原琢・水野清秀
 ・寒川 旭・七山 太(地調)・木下博久・新見 健・吉村辰朗・間野道子・井上 基(復建調
 査設計(株))・葛原秀雄(今津町教育委)・中村美重・岡司高志・横井川博之(新旭町教育委)
- P-11 琵琶湖湖底堆積物の鉱物組成分析に基づく過去 40,000 年間の環境変遷
 山田和芳・福澤仁之(都立大)・竹村恵二(京都大)・鳥居雅之(岡山理科大)
- P-12 関西大学史学地理学教室(コード名: KU)の放射性炭素年代測定過程
 網干善教・木庭元晴(関西大)・小元久仁夫(日本大)・米田文孝(関西大)・貝柄 徹(関
 西外大)・佐々木修一(ササキ化学)・岩田央之(エイトコンサルタント)・辻 康男(関西大)
- P-13 水中噴砂堆積物の基礎研究..... 富永英治・北村晃寿(静岡大理)・酒井英男(富山大理)
- P-14 六甲山南麓の地形・地質と震災の帯状・島状分布について
 石川浩次・細矢卓志・逸見健一郎(中央開発(株))
- P-15 兵庫県御津町 90m ボーリングコアの古環境解析
 田中眞吾(岐阜聖徳学園大)・小倉博之(大
 阪市大)・兵頭政幸・松下まり子(神戸大)・佐藤裕司(兵庫県人と自然博)・柏谷健二(金沢大)
- P-16 ボーリング資料から読みとれる神戸・阪神間の低地部の表層地質 斎藤礼子・
 北田奈緒子・溝上寿子((財)大阪土質試験所)・三田村宗樹(大阪市立大)・竹村恵二(京都大)
- P-17 大阪府河内平野完新統中・上部の堆積相解析と相対的海水準変動に関する予察.....
 別所秀高・松田順一郎((財)東大阪市文化財協会)
- P-18 大阪市街地における上町断層に沿う表層地質構造の再検討
 北田奈緒子・斎藤礼子((財)大阪土質試験所)・井上直人・三田村宗樹(大阪市立大理)
- P-19 年縞堆積物によって推定された三瓶大平火山火山灰の降灰年代.....
 加藤めぐみ・福澤仁之(都立大)・安田喜憲(日文研)・藤原 治(PNC)
- P-20 テフロクロノロジーによる 1993 年雲仙普賢岳噴火堆積物の研究 中尾川流域の例 ...
 長井大輔・内川貴幸・橘川貴史・遠藤邦彦(日本大)
- P-21 宮崎平野における更新世海進堆積物の層序 長岡信治(長崎大教育)・新
 井房夫(群馬大名)・長友由隆・赤木 功・井上 弦(宮崎大農)・西山賢一(筑波大地球科学)
- P-22 レス堆積物の TL 年代測定 九州北部と中国南東部を例に
 綿貫拓野・塚本すみ子(都立大)
- P-23 ESCA(X 線光電子分析装置)による粗粒石英の識別
 井上 弦・赤木 功・長友由隆(宮崎大農)
- P-24 炉跡地の表層土壌中の化学成分分析の特徴 渡辺栄次(名工研)
- P-25 ESR イメージングによる歯化石の非破壊年代測定 岡 俊秀
 ・山中千博・池谷元伺(阪大理)・仲谷英夫(香川大工)・吉 学平(雲南省文物考古研究所)
- P-26 中国「太湖」の湖底堆積物粒度組成 濱田誠一(道立地下資源調査所)・遠藤
 邦彦・村上祐則(日大)・仁科健二(道立地下資源調査所)・小森次郎(日大)・村田泰輔(北大)
- P-27 黄河三角洲域の沖積層とその発達様式 斎藤文
 紀(地調)・魏合龍・周永青(中国海洋地質研究所)・西村 昭・佐藤喜男・横田節哉(地調)
- P-28 中国、蘭州におけるレスの光ルミネッセンス年代測定
 塚本すみ子・福沢仁之(都立大)・小野有五・大井圭一(北大)・方 小敏(蘭州大)
- P-29 南極 H15 コア中のテフラ微粒子 林
 伸幸(日大院)・福岡孝昭(立正大)・河野美香(極地研)・遠藤邦彦(日大)・藤井理行(極地研)

第7回第四紀学会テフラ研究委員会
野外集会報告

吾妻 崇 (工業技術院地質調査所)

北部フォッサマグナ地域を対象としたテフラ委員会野外集会在7月5日～7日に行われた。今回の主な目的は、最近著しく知見が増大しつつある飛騨山脈周辺の大規模火砕流堆積物の観察、それに加えて昨年の同委員会の野外集会で八ヶ岳 - 大磯丘陵 - 房総半島と移動しながら観察した、更新世中期の含雲母テフラ層の給源を訪れることである。大まかなコースは飛騨山脈周辺から松本盆地を経て、北西方の魚沼丘陵に至る区間であり、全参加者52名は大型バスと乗用車に分乗し移動した。案内者は、原山智氏(信州大学)をはじめ、長橋良隆氏(福島大学)、町田洋氏、鈴木毅彦氏(東京都立大学)の4名で、特別参加者としてカナダ、トロント大学教授のJ. Westgate氏をお迎えした。

第1日目は早朝に新宿をバスで発ち、塩尻で現地集合の参加者と合流した後、飛騨山脈南西部へ向かった。まず、上宝火砕流堆積物によってつくられた平坦面である八本原を遠望した。西に緩く傾く八本原の勾配は、堆積当時の勾配だけでなく、飛騨山脈の隆起に関係した地殻変動の影響を受けているとの説明があった。続いて露頭で、上宝火砕流堆積物の溶結部と非溶結部を観察したが、両者の岩相の違いには「これが同じものか」といつも愕然とさせられる。層厚10m以上におよぶ溶結部には幅1～2m程度の柱状節理が発達しており、まるで石柱が乱立する古代遺跡のようであった。次に観察したテフラは、更新世前期に噴出した丹生川火砕流堆積物である。2露頭において、同火砕流堆積物の下位層(松原礫層、大洞火砕流堆積物が挟在)および、上位層(宮前層、滑谷降下火山灰、茶屋野凝灰岩層、恵比須峠火砕流堆積物)との関係を観察した。この後には、奥飛騨火砕流堆積物と上宝火砕流堆積物がつくる台地の東縁の急崖を観察する予定であったが、時間が押し迫ったために残念ながら割愛となった。夜の集会では、Westgate氏によるテフラ研究の手法についての小講演があった。

第2日目の最初に向かった大峯帯の露頭では、大峰溶結凝灰岩と鷹狩山火砕流堆積物I・IIを観察した。鷹狩山火砕流堆積物I・IIはともに層厚が10m以上に達し、Iが丹生川火砕流堆積物に、IIの大部分が恵比須峠火砕流堆積物、最下部約1mの成層し

た火山灰が、茶屋野凝灰岩層にそれぞれ対比されると説明があった。前日の露頭では恵比須峠と茶屋野との境界が不明瞭で「一連のものではないか」という意見も聞かれたが、この露頭で見た両者は明らかに全く異なるものであった。次の露頭でこれらの下位に位置する曾根原凝灰岩と丹生子溶結凝灰岩を、さらに高瀬川の河床で丹生子溶結凝灰岩を観察した。最後に立ち寄った大岡村樺平の露頭では、5枚の大町APmテフラ群を観察した。日頃、段丘上の火山灰ばかりを見ている私にとっては、ようやく見慣れたテフラにお目にかかれた気がした。この日の晩の小集会では、壇原徹氏(京都フィッシュントラック)から北アルプス起源テフラのFT年代について、また原山氏と池田安隆氏(東京大学)から飛騨山脈における火成活動と山地の隆起について、それぞれ研究の最先端をいく興味深い講演があった。

第3日目は、魚沼丘陵周辺へ移動し、まず、信濃川中流域の津南周辺に分布する河成段丘(谷上面:約35万年前)上に位置する露頭へ向かった。ここでは、段丘構成層の直上に存在する2枚の大町APmと、妙高起源を中心とするそれより上位のテフラ群を連続的に観察することができた。午後には、SK030、SK100、SK110など魚沼層群中に含まれる指標テフラ層を観察した。SK110を観察した沢沿いの露頭へ降りていくWestgate氏を見て、とても60歳を過ぎているとは思えない元気に感心させられた。

東京へ向かうバスの中では、今回のコースについて近くの席の方々と話はずませた。この野外集会では、回を重ねる毎に対象とするテフラの年代が次第に古くなっている。今回の巡検では、高位段丘を被覆する指標テフラと、その給源付近で丘陵を構成する火砕流堆積物とを一度に観察し、更新世中期のテフラの研究が、地質と地形の境界領域の実態を明らかにしていくであろうという印象を強く感じた。最後に、今回の巡検の案内をして下さった案内者ならびに企画・運営等に携わった関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

<コース概要とテーマ>

7月5日 岐阜県高山市～丹生川村、乗鞍高原泊:飛騨山脈南西部の大規模火砕流堆積物

7月6日 長野県池田町～大町市～大岡村、保科温泉泊:飛騨山脈東部大峰帯の大規模火砕流堆積物とテフラ

7月7日 新潟県津南町～十日町市～大和町:信濃川流域の河成段丘、魚沼層とその中の指標テフラ

“東海地震”防災セミナー1998 [第15回]のお知らせ

昭和59年以来、毎年静岡市で開いてきましたが、本年も下記のとおり開催致します。関心をお持ちの方々のご参加を期待します。

日時:平成10年11月16日(月)13:30 - 16:00 会場:静岡商工会議所5階ホール(JR静岡駅北口西側)

テーマ:東海地震予知と防災への新たな取り組み 座長:元防災研究所長 高橋 博

1.東海地震へのシナリオの現状 東京大学名誉教授 溝上 恵

2.地震情報に社会はどう対応すべきか 東京大学教授・社会情報研究所 廣井 脩

主催:東海地震防災研究会 連絡先:〒422-8035静岡市宮竹1-9-24 土研究事務所 土 隆一

Tel. 054-238-3240 Fax. 054-238-3241

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース

No. 15

(1998年6月)

お知らせ：

地球惑星科学関連学会1999年合同大会のセッション、シンポジウム提案の一般公募について

1999年合同大会実行委員会

1999年合同大会は6月8日(火)～11日(金)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町3-1)で開催されます。この合同大会においては、1998年大会と同様に、共通・固有セッションの区別はありません。また、セッション・シンポジウムは、各学会プログラム委員等からの申し出と一般公募の両方で募集します。各学会宛には提案方法について別途連絡致しますので、以下では一般公募について述べます。

セッション・シンポジウムを提案される方は、次の情報を合同大会組織委員会まで電子メールあるいは郵送にてお送り下さい。地球惑星科学の将来展望や社会的位置づけ等に関連するセッション・シンポジウムの提案も歓迎します。

提案項目は以下の通り

1. セッション・シンポジウム名(全角換算40字以内)
2. 提案者名・連絡先(所属機関、住所、電話、FAX番号、{必ず}電子メールアドレス)
3. コンビナ候補者2,3名のリストと連絡先(所属機関、住所、電話、FAX番号、{必ず}電子メールアドレス)
4. 内容の簡単な説明(1行全角40字以内で3-5行)
5. 合同大会で行うことの意義(1行全角40字以内で3-5行)
6. 予想される発表論文数(口頭発表、ポスター発表それぞれの概数も)
7. 会場に必要な収容人数
8. 過去の実績(もしあれば)

もっとも近くに行われた合同大会におけるセッション・シンポジウム名、コンビナ名、発表論文数(口頭、ポスターそれぞれの総数)、使用会場の収容人数、実際の参加者概数(i.e. 会場の混み具合)

*項目が不備な提案については、提案者の方に再提案をお願いすることがあります。

提案の締め切り 1998年10月9日(金)

提案の宛先

郵送の場合：

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学理学研究科地震火山研究観測センター気付

1999年合同大会実行委員会(提案在中と朱記して下さい)

提案の印刷とフロッピー原稿(DOS形式1.44MBフォーマット)の両方をお送り下さい。

電子メールの場合：

上記について、右記のアドレスまでお送り下さい。taikai@eos.hokudai.ac.jp

提案についてはプログラム委員会で議論してその採否を決め、採用となったものについては内容の改良、組み替え、他のセッション・シンポジウムとのすりあわせ等を行い、コンビナを選びます。

以上。

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース第15号

1998年6月10日発行

発行：地球惑星科学関連学会連絡会
幹事 坪井誠司(日本地震学会)

編集：地球惑星科学関連学会連絡会
委員 加藤尚之(日本地震学会)

日本考古学協会 1998 年度大会案内

期 日：1998 年 10 月 17(土)・18(日)・19(月)
会 場：沖縄国際大学
(沖縄県宜野湾市字宜野湾 276-2)
主 催：日本考古学協会
共 催：沖縄考古学会
事務局：日本考古学協会 1998 年度沖縄大会
実行委員会
(大会委員長 高宮廣衛)
903-0129 沖縄県中頭郡西原町字千原1
琉球大学考古学研究室
電話098-895-8270(池田)・8276(後藤)

日程：10月17日(土)
記念講演 14:00 ~ 17:00
懇親会 17:30 ~ 20:00
10月18日(日)
シンポジウム(分科会) 9:30 ~ 16:00
1) 南九州・沖縄の旧石器文化
2) 九州・沖縄と縄文文化
3) 器からみた中世の交流と交易
4) グスクを考える
5) 戦争・戦跡の考古学
図書交換会 10:00 ~ 15:00
10月19日(月) 見学会

第1回 C E R e S 環境リモートセンシングシンポジウム

千葉大学環境リモートセンシング研究センター(CEReS)は「リモートセンシング技術の確立と環境への応用」に関する研究を行うことを目的として設置され、全国共同利用施設として共同利用研究、共同利用研究会の活動を行ってきました。これらの研究の成果を公開するとともに環境リモートセンシングに関心のある方々にも広く参加を頂き、御討論頂けるように今年度よりシンポジウムを開催いたします。本年は、センター主催の国際シンポジウムも続けて開催し、両方へご出席頂けるよう工夫しております。是非、シンポジウムに御参加頂き、活発な御討論を頂けるようお願いいたします。

対象分野

- ・アジアの環境変動地域のモニタリング。
- ・リモートセンシングデータの大気補正。
- ・大気・植生・海洋・水文過程のリモートセンシング、衛星データの検証・校正。
- ・地理情報システム(GIS)の応用。
- ・データベースに関する研究。
- ・その他、リモートセンシングの応用に関する研究。

日 時：12月8日(火)～12月9日(水) 場 所：千葉大学けやき会館
参加費：無料 懇親会：12月8日シンポジウム終了後(有料)

講演発表の方法

シンポジウムは口頭講演(発表15分、質問5分)とポスター講演に別れております。

講演申込

講演をされる方は10月31日までに申込用紙を事務局までお送りください。

電子メール(事務局宛て)での申し込みも受け付けております。

プロシーディング

所定の書式(ホームページ参照)のカメラレディーの原稿(A4,4ページ程度)を当日お持ちください。

事務局 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学環境リモートセンシング研究センター 岡山 浩

Tel:043-290-3843, Fax:043-290-3857 E-mail:okayama@rsirc.cr.chiba-u.ac.jp

関連研究会

- ・水文過程のリモートセンシングに関するワークショップ
期日：9月5,6日
会場：千葉大学理学部附属海洋生態系研究センター小湊実験場
問い合わせ：近藤 (Email:kondoh@rsircr.chiba-u.ac.jp)
- ・雲のリモートセンシング(気象研究所と共催：9月21-22日,気象研究所(つくば))
問い合わせ：高村 (Email:takamura@rsirc.cr.chiba-u.ac.jp)
- ・「衛星データの気象補正-実利用の立場から」(10月30日(金)(予定),千葉大)
問い合わせ：竹内 (Email:takeuchi@rsirc.cr.chiba-u.ac.jp)
- ・CEReS 国際シンポジウム「Global Change in East Asia -- Vegetation monitoring」
(12月10,11日,千葉大学けやき会館)
問い合わせ：本多 (Email:yhonda@rsirc.cr.chiba-u.ac.jp)

平成9年度地方自治体活断層調査報告会

科学技術庁では平成9年度地震関係基礎調査交付金で行われた地方自治体による活断層調査の報告会を下記の日程で行います。参加ご希望の方は下記までファックスまたははがきにてお申し込みください。プログラム等詳しい内容につきましては、下記問い合わせ先までご連絡ください。

日時：平成10年11月4日(水)9:30～17:30、5日(木)9:30～16:45

会場：東京都千代田区大手町1-8-3 JAビル8階 JAホール

概要：地震関係基礎調査交付金による活断層調査に関する情報を自治体間で交換し合い、活断層調査の有効な調査手法及び成果の地域防災への適切な活用方法について検討するとともに一般市民に全国で調査を実施している活断層情報を提供する。日程としては11月4日は平成9年度で調査が終了した断層、11月5日は平成10年度も調査継続中の断層についての発表が行われる。

発表者：平成9年度地震関係基礎調査交付金事業実施自治体

一般参加者定数：150名程度

参加費：無料

申込方法：ファックスまたははがきに、氏名、勤務先(または自宅)住所、電話・ファックス番号を明記の上、下記までお送り下さい。

問い合わせ・申込先：〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-5-18 千代田本社ビル5階
(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター 活断層報告会係
電話 03-3295-1501 FAX 03-3295-1507



INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON PALEOANTHROPOLOGY IN COMMEMORATION OF THE 70TH ANNIVERSARY OF THE DISCOVERY OF THE FIRST SKULL OF PEKING MAN

BEIJING, OCTOBER 12-17, 1999

Sponsored by the Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology, Chinese Academy of Sciences.

FIRST CIRCULAR

December 2, 1999, is the 70th anniversary of the discovery of the first skull of Peking Man. To commemorate this event, we have decided to hold an international symposium on Paleoanthropology in Beijing(12-17 October, 1999). Main topics will be Paleoanthropology, Paleolithic Culture, Biostratigraphy, Quaternary environments and related fields. Participants will include scholars from home and abroad. The Organizing Committee sincerely extends a warm welcome to you and hopes you could attend the symposium.

President Organizing Committee: Prof. Qiu Zhuding

Postal address:

Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology,

Chinese Academy of Sciences P. O. Box 643, Beijing 100044, P. R. China,

E-mail address: ZKDIVPP@public.east.cn.net Fax:(86-10)68312683 or (86-10)68337001

(I) Call for Papers

All prospective participants are asked for submitting an abstract in English (about 500 words) to the Organizing Committee, no later than January 1, 1999. Abstract should be single spaced (15 x 20 cm paper), and should not exceed 1 page. You may also send it back by E-mail or Fax. Please refer to the attached specification.

(II) Pre- and Post-symposium Excursions

Route 1: 7-11 October, Excursion to fossil localities including Lantian, Dali and Banpo sites (Shanxi Province); Dingcun site (Shanxi Province)

Route 2: 8-11 October, Excursion to Nihewan Basin (Hebei Province)

Route 3: 18-25 October, Excursion to Wushan site (Chongqing Municipality)

Route 4: 18-25 October, Excursion to Baise site (Guangxi Zhuang Autonomous Region) and Dadong site(Guizhou. Province)

(III) Expenses

The expenses for lodging (double room including meals) and transportation is to be paid by the participants. During the period of the symposium, participants will stay at the Yanshan Hotel near Zhoukoudian.

The inclusive cost for attending symposium is US\$ 800 per person (registration, lodging), and that for accompanied and student member is US\$720.

Those who take part in the field trip will pay the transportation and lodging fees for field excursions. The inclusive costs for the field trips mentioned above are as following:

Route 1, US\$ 690; Route 2, US\$ 300; Route 3, US\$ 890; Route 4, US\$ 880

All prospective participants are requested to pay the fees for the symposium and field excursions in advance.

予備登録：ファックスまたは電子メールで、シンポジウムへの参加、参加したい巡検のルート、講演希望と題目、姓名、性別、所属、住所、電話・ファックス、メールアドレスを大会事務局あて連絡して、セカンドサーキュラーを請求して下さい。

31st INTERNATIONAL GEOLOGICAL CONGRESS Rio de Janeiro- Brazil, August 6—17, 2000

2000年8月にブラジル・リオデジャネイロで開催される第31回国際地質学会議(IGC)のファーストサーキュラーが配布されています。入手を希望される方は下記事務局までご請求下さい。電子メールによる請求も受け付けています。また、同大会ホームページもご参照下さい。予備登録の期限は1998年11月1日です。

Secretariat Bureau — Casa Brasil 2000

31st INTERNATIONAL GEOLOGICAL CONGRESS

Av. Pasteur, 404 — Urca — Rio de Janeiro — RJ — Brazil

Cep 22.290-240 — Phone: 55 21 295 5847 — Fax: 55 21 295 8094

E-mail: 31igc@31igc.org — <http://www/31igc.org>

新潟大学理学部自然環境科学科教員公募

- 職名及び人員：新潟大学理学部自然環境科学科
地球環境科学大講座 教授1名
- 専門分野：広い意味での環境地質学
- 応募資格：博士の学位を有し大学院自然科学研究科博士前期・後期課程の担当が可能であること。
- 担当講義：学科の専門科目（講義のほか実験・実習を含む）のほか、教養科目の講義も担当、また、大学院自然科学研究科の講義を担当予定、
- 着任時期：1999年（平成11年）4月1日
- 提出書類：（1）履歴書
（2）業績リスト（レフェリー制度の確立された学会誌等に掲載された学術論文、その他の論文、国際会議等の報告に分けてリストを作成すること）
（3）研究成果の概要（2000字程度）
（4）主要論文の別刷5編程度
（5）今後の研究計画と教育に関する抱負（2000字程度）
（6）照会可能な2名の方の連絡先
- 提出締切：1998年10月15日
- 問い合わせ及び書類の送付先（書類は書留で送付のこと）
〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050
新潟大学理学部自然環境科学科 学科長 石田昭男
電話/FAX：025-262-7536
E-mail：ishida@artemis.ge.niigata-u.ac.jp
- その他の参考事項：
自然環境科学科は1994年（平成6年）度に新設された学科で、地球環境科学大講座、環境生物学大講座、物質循環科学大講座の3大講座から構成されている。学生定員30名、教員定員18名からなる、現在の地球環境科学大講座のスタッフと研究テーマは次の通り。
教授 檀上篤徳 原子・分子物理学
助教授 高橋利保 超高層大気物理学
助教授 久保田喜裕 資源・環境地質学
講師 卯田 強 活断層・構造地質学

神戸大学内科医機能教育研究センター公募

神戸大学内海域機能教育研究センターで教授1名が公募されています。

本センターは瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域の海洋生物・海洋環境に関する教育・研究を目的とする学内共同教育研究施設として、平成7年4月に理学部附属臨海実験所を改組し、設置されたもので、生命動態（生物系）、環境科学（地球科学系）の二教育研究分野から構成されています。公募研究分野は海水中の懸濁物質（サスペンション）の動態（運搬・拡散・集積、海洋生物との相互作用など）の地球物理学・地球科学的解析です。

提出書類は1）履歴書；2）業績リスト（査読のある学術雑誌に掲載された原著論文、著書、その他に分類して作成）；3）主要研究論文の別刷りまたはコピー（10編以内）；4）これまでの研究内容の概要と今後の研究・教育の抱負（2000字程度）；5）推薦書、または応募者に関する意見を求めることのできる方2名の氏名・連絡先；6）その他参考になる事項（学会賞などの受賞、研究費取得状況、学会等での活動、招待学術講演など）、応募締切は10月16日（金）で、着任時期は事務手続き終了後なるべく早い時期を希望しています。選考の過程で応募者本人に直接面接により業績の説明などを求めることがあります。応募書類は封筒に教官応募書類と朱書して書留でお送りください。

[応募書類送付および問合せ]

656-24 兵庫県津名郡淡路町岩屋 2746

神戸大学内海域機能教育研究センター

センター長 川井浩史

TEL 0799-72-2374 Fax 0799-72-2950

E-mail kawai@kobe-u.ac.jp

<http://www.kurcis.kobe-u.ac.jp/>

受賞候補者・研究助成候補者の推薦依頼

女性科学者に明るい未来をの会より日本第四紀学会に1999年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者および研究助成候補者の推薦依頼がきています。会員より広く推薦候補者を募集します。

猿橋賞

1. 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者(ただし、下記の推薦締切日で50才未満)に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞金(30万円)をそえます。
3. 本賞の贈呈は1年1件(1名)です。
4. 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度、及び推薦者氏名・肩書きを女性科学者に明るい未来をの会事務局にお送りください。
5. 締切は1998年11月30日(必着)
6. 贈呈式は1999年5月、東京において行う予定。

研究助成

1. 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者に対し、研究助成をします。
2. 助成金は1件10万円とし、年に数件とします。
3. 所定の用紙に推薦対象者(各締切において満40才未満)の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等、及び推薦者氏名・肩書きを記入して、女性科学者に明るい未来をの会事務局にお送りください。
4. 締切は1998年11月末日と、1999年4月末日の2回。

申し込み用紙ご希望の方は庶務幹事又は下記の事務局にお問い合わせください。

女性科学者に明るい未来をの会

事務局住所 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-29-2-217

TEL 03-3330-2455 (Fax 兼用)

平成10年度沖縄研究奨励賞推薦について

沖縄協会より第四紀学会に沖縄研究奨励賞の候補者推薦依頼がきました。お心当たりの方は庶務幹事にご連絡ください。

対象：沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究を行っている50歳以下(7月15日現在)の新進研究者(又はグループ)3名。(グループの場合全員が50歳以下のこと)

賞金：50万円(研究助成金として)

推薦者：推薦者は学会、研究機関若しくは大学又は実績ある研究者から推薦を受けた者。

応募方法：所定の応募用紙に所要事項を記入して、学会の推薦を受けて申請。

問い合わせ先：

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7F

(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」

担当 石坂次郎、大嶺 隆 Tel: 03-3580-0641 Fax: 03-3597-5854.

海洋地球研究船「みらい」を利用する研究課題の公募

1. 研究内容 各航海毎に主たる海域及び航海期間で実施可能な研究課題(例えば、高緯度地域における物質循環の研究と並行して実施可能な大気・海洋相互作用に係わる観測研究等)
2. 申込資格：国内 国内の研究者並びにこれに準ずる者。国外 国内の共同研究者を通じて申込できる者
3. 申込書類：「みらい」利用申込書に必要事項を記入
4. 期 限：平成10年8月15日(土)必着
5. 申込先：海洋科学技術センター研究業務部計画調整課 担当：箱崎・黒田
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15 Tel 0468-67-3938 Fax 0468-67-3947
* 申込書は海洋科学技術センターから直接取り寄せて下さい。

第17期・第2回第四紀研究連絡委員会 議事録

日時：1998年2月23日(月) 13.30～17.00

会場：日本学術会議第4部会議室

出席：太田陽子・鎮西清高・小池裕子・大場忠道・
小野 昭・小野有五・砂村継夫・増田富士雄・
酒井潤一・町田 洋

欠席：小泉 格・吉川周作・坂上寛一

1. 報告

(1) 学術会議

鎮西清高氏より2/12・13開催の連合部会と第4部会の報告があった。

連合部会

1) 各領域別研連(会員推薦研連)が対象とする研究領域の内容・範囲を100-150字程度に明文化し、関連研連登録と推薦管理会審査の参考資料とすることとした。ただし第四紀研連は課題別研連のため、明文化の必要はない。

2) 各常置委員会の活動報告。

第4部会

1) 理学総合連絡会議第1回会議を3/24に開催。

2) 10年度国際会議代表派遣の採択。関係分野を天文・地物 物理 地質・地理 生物 数学のグループに分け、第4部枠425万円(14件)を従来と同様の方式で配分：第1区分(学術会議加盟会議総会への派遣)4件を優先的に配分。第2区分2件、第1区分がないグループに各1件を配当し、残りは過去3年間の実績で3件を配分。グループでは第1区分として1件、第2区分に2件、第3区分に2件配分された。(第四紀研連に1：小池氏)

(2) 地質科学総合研連

鎮西氏よりつぎの報告があった。

1) 地質関係学協会連絡協議会について継続審議し

た。各学協会の独自性を認めるゆるい連合体をめざす。

2) 近い将来日本で国際会議を開催予定の応用地質と水文地質との2小委員会を設けた。

3) 研連見直し問題

今期の学術会議の計画の下見直しすることになった。

2. 議題

1) 引き継ぎ事項

第16期研連の活動報告(第17期への引き継ぎ事項を含む)が紹介され、報告のうち(3)(大学における第四紀研究の教育研究体制の調査)について、膨大な資料のまとめ・報告が必要であることが指摘された。

2) 今期の活動方針

A 国際対応 1999年INQUA大会開催に向けて記念出版物をつくることになった。内容は研究委員会、INQUAの各委員会の委員が主体となり、大会の主テーマと関連するものを中心にまとめることが話し合われた。必要な経費については第四紀学会と相談する。これを含めて国際共同研究推進などについての具体案は次回に審議する。

B 国内対応 シンポジウムを開催。いくつかのテーマ案が提出されたが、具体案は次回審議することになった。

3) 研連見直し問題

これに関連する日本学術会議構成図および第4部研連、専門委員会の構成表、さらにこれまでの討議資料が鎮西氏から提示された。問題点は委員の選出方法、人数、国際的な機関との対応など。

3. その他

3/24の理学総合連絡会議には海外出張中の太田委員長に代わり町田幹事が出席することになった。次回会議の予定 5月22日(金) 13.30～。

1997年日本第四紀学会

第7回幹事会議事録

日時：1998年4月18日(土) 15:00～18:00

場所：東京大学理学部5号館、地理学教室会議室

参加者：米倉、太田、真野、小野、斎藤、奥村、
松浦、中村、山崎(欠席 吉川、辻)

庶務幹事報告：

- ・会費長期滞納者(4年以上)46名について除名を行った。
- ・論文賞候補者選考委員の選挙を行い以下の5名が選出された。
松田時彦(地質学)24票、小泉武栄(地理学)21票、大場忠道(地球化学)21票、小泉 格(古生物学)19票、赤沢 威(人類学)15票 投票総数 30
- ・国際シンポジウム「琉球列島(南西諸島) 島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台」の後援依頼

の承認

- ・受け入れ図書報告17件(98年1月13日-4月14日)
- ・第四紀研究転載許可報告 1件
- ・地球惑星科学合同大会事務局へプログラム送付会員116名を通知。
- ・推薦依頼 三宅賞受賞及び研究助成候補者推薦 8月31日締め切り。

会計幹事報告：

- ・名簿発行について広告の募集要項を企業に配布する。会員の訂正締め切り5月31日。広告は完全版下を用意して6月中旬締め切り。名簿原稿は6月中に印刷所に入れる。印刷部数 2,200部。

編集幹事報告：

- ・原稿の集まりは良好。投稿は月平均2本ある。
- ・第四紀研究の1997年年間論文掲載数 30論文(書評は除く)。
- ・予定印刷ページ数をオーバーしてしまうが、受理論文の積み残しを作らないよう努力したい。増ページで審議

会報幹事報告：

- ・「第四紀通信」5巻2号は4月17日に刷り上がった。20日からの週に会員の手に届く。
- ・評議員会で承認された電子メールアドレス登録、とりあえず試験的運用をスタートさせる。
- ・「第四紀通信」5巻3号では第四紀学会大会案内を中心に記事を書ける。

行事幹事案内：

- ・地球惑星科学関連学会合同大会を5月26～29日に実施する。第四紀セッションは5月27日(水)に行われる。
- ・99年の京都大会では、シンポジウムのタイトルにテクトニクスだけでなく、人間という見地を入れて欲しいと要請した。

渉外幹事報告：

- ・4月3日自然史科学学会連合運営委員会報告。各学会に対し科研費審査委員の推薦依頼が出された。

企画幹事報告(庶務幹事が代理報告)：

- ・第四紀講習会は幹事の海外出張などのため秋以降に実施することとした。

研連委員報告：

- ・INQUA要覧を第四紀研究37巻2号に載せた。
- ・99年INQUA対策として国内委員会報告、特集号、Recent progressの刊行などを行いたい。第四紀学会の方針を決めて欲しい。
- ・シンポジウム実施 現在の研連委員の任期中(2000年10月まで)に2～3回の国際・国内シンポジウムを行いたい。

審議事項

庶務：地理学関連学会連合への参加について

- ・地理学会より再度要請があったが、状況に特段の変化はなく、第四紀学会としては幹事会の決定ど

おり地理学関連学会連合には参加しないことを再度確認した。

編集：第四紀研究の増ページ問題

- ・2号については96ページとしたが、受理済み原稿が5本あり4号では積み残しが出る(3号は特集号)。そのため、今年度は増ページすることを決定した。

INQUA 特集号について第四紀学会の対応

- ・編集委員会を作って progress report を出す。
- ・第四紀学会のINQUA対策費90万円を使ってその費用に充てることを承認した。内容については次回幹事会で審議する。

行事：98年度大会の参加費について

- ・会員、非会員にかかわらず参加費は取らないこととした。来年度については京都の意向を尊重して幹事会で決定する。参加費を取る場合には評議員会に報告する。

渉外：自然史科学学会連合 科研費審査委員の推薦について

- ・今回は決定せず相談を続ける。

第四紀研連：

- ・シンポジウムの開催案募集

国際シンポジウムの実施予定

99年3月 つくばで国際シンポジウム(日中、東シナ海の物質環境)

3年後 国際古海洋会議

活断層関係(地震危険度評価)の国際シンポ(ILP-2-5)

第四紀研連はこれらにのり、シンポジウムに発表者を送る。

国内シンポジウム

学会会議講堂を利用できる。シンポジウム案を募集する。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀学会広報委員会 広島大学文学部地理学教室 奥村晃史
739-8522 東広島市鏡山 1-2-3 kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp

Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

次号は9月中旬原稿締切 - 9月下旬発行予定です。

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/> にもホットな情報をお届け下さい。リンクも歓迎いたします。